

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和7年度 第2回 図書館協議会	
開催日時	令和7年8月26日（火）午前10時から11時40分まで	
開催場所	朝霞市立図書館本館 視聴覚室	
出席者及び欠席者の職・氏名	出席者 委員6名 有永克司会長、大野良雄副会長、鈴木恭子委員、伊藤孝人委員、石川敬史委員、駒牧容子委員 事務局5名 増田図書館長、齊藤館長補佐、五十嵐専門員兼北朝霞分館長、早川庶務係長、柴沼図書館サービス係長 欠席者 委員1名 小石川知治委員	
議題	議 題 （1）報告事項 ア 令和6年度事業報告および利用状況について イ 第3次朝霞市立図書館サービス基本計画（令和6年度実績報告） ウ 第3次朝霞市子ども読書活動推進計画（令和6年度実績報告） エ 朝霞市子ども読書活動推進計画アンケートおよび朝霞市子どもモニターアンケート集計結果について （2） その他	
会議資料	・令和7年度 第2回 図書館協議会 次第 ・令和6年度事業報告（資料1－1） ・令和6年度図書館利用状況（資料1－2） ・第3次朝霞市立図書館サービス基本計画（令和6年度実績報告）（資料2） ・第3次朝霞市子ども読書活動推進計画（令和6年度実績報告）（資料3） ・朝霞市子ども読書活動推進計画アンケート 集計結果（資料4） ・朝霞市子どもモニターアンケート 集計結果（資料5）	
会議録の作成方針	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	☒ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	☐ 要点記録	
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	☒ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 出席委員による確認	
傍聴者の数	0名	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

早川庶務係長

規則により、会長に議長をお願いします。

有永会長

議題（１）報告事項 ア令和６年度事業報告および利用状況について、事務局より説明をお願いします。

柴沼係長

それでは、議題の１点目「令和６年度事業報告について」ご報告いたします。はじめに、資料１－１「令和６年度 事業報告」をご覧ください。

主な事業について説明いたします。

１番目の「一般向け講座」は、令和６年度は、競技かるたについて講義と実演、体験の講座を実施し、１４人の参加がありました。また、講座に連動して、話題本「百人一首と歌人たち」も実施いたしました。

２番目の「青少年対象講座」は、青少年向けの講座を通じて、本に親しむ機会を提供することを目的に行っている事業です。令和６年度は、令和５年度に続き、イラストの技術向上と描く仕事の種類や就職までの進路を学ぶ講座内容として、アニメーション関係の学校の講師をお招きし、講座を開催したところ、２８人の参加がありました。

３番目の「児童文化講座」は、大人を対象に、子どもの成長に読書が果たす役割や、本と出会うことの大切さなどを伝え、子どもの読書の推進を図るため実施しております。令和６年度は、糸魚川市学校司書で、また絵本専門士でもある朝日仁美（あさひひとみ）氏をお招きし、主に子どもの読書活動に携わる方を対象に「読書とは何か」「子どもと読書につなげるヒント」を学ぶ講座を実施し、１５人の参加がありました。

次の「ブレママ・パパ 絵本講座」は、赤ちゃんがお腹にいる時から話しかけ、読み聞かせを行うことで、親子のきずなを深めていくこと、また読み聞かせの楽しさや大切さを、実演を交えながら伝えていくことを目的に実施しており、その後の「ブックスタート」や「赤ちゃん和妈妈・パパのおはなしタイム」とつなげ、子ども読書活動の推進に向け、スタートにもなると考えております。７月２７日、２月１１日に実施し、延べ１０人の妊婦とそのご家族の参加がありました。

次の「ブックスタート」事業は、保健センターで毎月実施される乳幼児の４ヶ月健診時に、図書館職員やブックスタートボランティアがメッセージを伝えながら絵本をプレゼントし、絵本を通じた親子のふれあいを体験していただきながら、図書館の利用をＰＲしています。令和６年度は、２４回実施し、１，０６６組の参加がありました。

２ページ１番目の、「赤ちゃん和妈妈・パパのおはなしタイム」は、ブックスタートのフォローアップを目的に行っている事業で、２２回実施し、１２３組延べ２６９人の参加がありました。

２番目の「うさみみタイム」は、毎週木曜日、絵本の読み聞かせや紙芝居等を職員が行うもので、令和６年度は４７回実施し、延べ４９５人の参加がありました。

次の「子ども読書の日お楽しみおはなし会」は、子ども読書の日的前後に、読書のきっかけ作りを目的に開催し、令和６年度は４月２０日（土）に午前は幼児（未就学児）を対象に開催し、１８人の参加があり、午後は小学生を対象に開催し、１５人の参加がありました。

次の「夏休みおはなし会」は、子ども向けおはなし会を開催することで、読書のきっかけづくりと図書館の利用促進を図ることを目的に、夏休みに入った７月２５日（木）に午前は幼児（未就学児）を対象に開催し、２８人の参加があり、午後は小学生を対象に開催し、９人の参加がありました。

次の「クリスマスおはなし会」は、クリスマスに関連した絵本の読み聞かせを行い、本への興味を広げ、子どもの読書と図書館利用の促進を図ることを目的に実施しているもので、６７人の参加がありました。

３ページ目の「シネマライブラリー」は、名作映画を上映し、図書館に足を運んでいただくこ

とを目的に行っている事業で、それぞれ、過去に話題作となった5作品を上映し、延べ94人の参加がありました。

次の「子ども読書の日おたのしみ映画会」は、こども読書週間の間に児童文学を原作とした映画を上映し、読書のきっかけを作ることを目的に実施しています。令和6年度は、4月27日の祝日に午前・午後各1回「トム・ソーヤの冒険」を上映し、延べ30人の参加がありました。

次の「夏休みこども映画会」は、8月22日に実施し、「赤毛のアン」を午前・午後各1回上映し、延べ33人の参加がありました。

「図書館まつり」は、6月29日（土）、30日（日）に開催し、展示や、人形劇などの発表・催し物を行い、延べ2,086人のご来場をいただきました。

「らいぶらりコンサート」は、5月26日（日）に開催し、6団体の参加があり、様々な楽器の演奏を聴くことができました。延べ136人のご来場をいただきました。

次の「本の福袋」は、年始企画として実施し、277袋、297冊を貸出いたしました。

4ページの「書庫見学ツアー」は、普段入ることのできない書庫を見学するほか、図書館業務について知っていただくもので、7月26日の午前中に小学生、午後に中・高校生を対象として実施、2月4日は成人向けを開催し、延べ37人の参加がありました。

次の「ライブラリーミーティング」は、7月13日（土）に開催いたしました。当日は、4人の方に参加いただき、図書館への要望やご意見などをいただきました。

次の「アサカストリートテラス2024 参加事業「森の図書館」」は、子どもの読書活動推進と図書館利用の促進を図るため、「アサカストリートテラス2024」に出展し、職員による「おはなし会」のほか、図書館の紹介や簡単な読書案内などを実施しました。また、除籍となった絵本の展示、配布を行いました。令和6年度は、11月3日の午前・午後に「おはなし会」を実施し、延べ80人の参加がありました。

次に、分館から事業報告をいたします。

五十嵐分館長

資料1-1の5ページをご覧ください。

まず、「えんじょいきっず」につきましては、小学3年生から6年生の児童に、図書館の仕事を体験することで、本に興味を持ってもらうことを目的に実施しております。

例年、夏休み期間中に実施しており、令和6年度は、8月1日（木）、8日（木）、15日（木）、21日（水）の4回実施し、17人の児童にご参加いただきました。

次に、大人向け映画会「名画THE分館」につきましては、8月18日（日）に「E.T」を上映し、16人にご参加いただきました。また、上映作品に関連するテーマとして、「宇宙」を取り上げて、図書館内で展示を行い、資料の利用促進を図りました。

次に、子ども向け映画会「キッズシネマ」につきましては、10月14日（月・祝）に「ころわんのおはなし」「新見南吉傑作童話集・ごんぎつね」「日本のおばけ話・のっぺらぼう」「ふるさと再生 日本のおばなし・ぶんぶく茶釜」など3作品を上映しました。こちらは61人にご参加をいただきました。

こうした映画の上映を通じて、本を読むきっかけにいただき、図書館の利用促進につながるものでございます。

最後に、「絵本の読み聞かせ」につきましては、毎月第3火曜日に、ボランティアグループの「おはなしの木」の皆さんのご協力により、実施しているものです。4月から10月は、開始時間を午後3時30分とし、日の暮れるのが早い11月から3月は開始時間を午後3時からと設定させていただいております。事前申込制となっており、12回実施し延べ263人の方にご参加いただきました。

柴沼係長

次に、資料1-2「令和6年度 図書館利用状況」をご覧ください。

1番目「貸出人数」をご覧ください。WEB分を含め、図書館本館が161,510人、分館62,719人、公民館5館の合計で24,061人、総計248,290人で、前年度と比較して、3,433人減、1.4%減となっております。

2 番目「貸出点数」をご覧ください。WEB分を含め、図書館本館が472,677点、分館215,263点、公民館5館の合計で73,643点、総計761,583点で、前年度比較で、23,502点減、3.0%減となっております。

次に、2 ページの1 番目「新規登録者数」をご覧ください。

図書館本館が2,372人、分館747人、公民館5館の合計で157人、総計3,276人で、前年度と比較して、149人減、4.4%減となっております。

2 番目「予約点数」をご覧ください。WEB分を含め、図書館本館が158,530点、分館9,078点、公民館5館の合計で2,117点、総計169,725点で、前年度比較で、197点増、0.1%増となっております。

3 ページ目の「開館日」をご覧ください。図書館本館が324日、分館が324日、公民館5館の合計で1,267日、総計1,915日で、前年度比較で、59日減、3.0%減、となっております。主な理由としては、令和6年度は東朝霞公民館及び北朝霞公民館が空調設備改修工事に伴う休館があったことによるものです。

次に、図書館本館の「実来館者数」をご覧ください。令和6年度は262,139人、前年度比較で、1,276人増、0.5%増となっております。

最後に、令和4年3月より開始した「電子図書館」ですが、貸出回数は、4,953回、閲覧回数は、16,951回となっております。

令和6年度は、前年度同様に、新型コロナウイルス感染症拡大以前と同様のサービス、事業が実施できましたが、利用増には及びませんでした。一方、実来館者が増加していることから、資料閲覧を中心とした滞在型の利用が伸びているものと考えられます。

以上が、令和6年度事業報告でございます。

有永会長

ただ今、事務局から説明がありましたが、ご意見やご質問はございますか。

大野副会長

資料1-1の3ページにある「本の福袋」は、一つの袋に一冊入っているのですか、それとも何冊か入っているのですか。

齊藤補佐

原則一袋に一冊ですが、二、三冊入っている場合もあります。普段読まない本を手にする機会ということで、好評をいただいています。

鈴木委員

資料1-2の3ページ、実来館者数について、北朝霞分館がないのは何故ですか。また2ページの新規登録者数について、世代・年代別のデータはないのですか。

五十嵐分館長

北朝霞分館でも実来館者数は計測しているのですが、データの整理ができておらず、提示できませんでした。申し訳ありません。次回にでもご報告させていただきます。

齊藤補佐

新規登録者数の年代別のデータは取れておりますが、まだ整理ができておりません。

有永会長

次回からは実利用者数（登録者のうち一年度間で一回以上貸出をした人）と、登録率も報告してほしいと思います。

貸出数ですが、これは視聴覚資料や雑誌も含んだ数なのですか。

齊藤補佐

すべて含んでいます。

石川委員

資料1－2、3ページの電子図書館サービスについて、利用がだいぶ減少しています。これについて、どのような対策を行っていますか。もうひとつ、毎年、利用統計には公民館図書室も含まれていますが、事業報告は本館と分館のみとなっています。公民館図書室での事業についてはどうなっていますか。

齊藤補佐

電子図書館につきましては「図書館まつり」でブースを設置するなどPRに努めています。また、新規登録の際に電子図書館への登録を勧めています。

増田館長

電子図書館については利用者アンケートなどを見ても「存在を知らなかった」という回答が多く、周知があまり上手くいっていないと思いますので、市のXなどを活用してまいります。また、予算の関係でコンテンツを大幅に増やすことが難しい状況ですので、まずは皆様に電子図書館の存在を知っていただく努力をしていきたいと考えております。

齊藤補佐

公民館図書室の事業についてですが、各館で実施しております読み聞かせや映画会は公民館事業として行っているものでして、図書館は携わっておりません。図書館としましても公民館事業をサポートできる体制が整っておりませんことから、今後の課題であると考えています。

有永会長

それでは、イ第3次朝霞市立図書館サービス基本計画（令和6年度実績報告）について事務局より説明をお願いします。

齋藤補佐

それでは、資料2「第3次朝霞市立図書館サービス基本計画（令和6年度実績報告）」をご覧ください。

第3次朝霞市立図書館サービス基本計画では、計画の進行管理を行うため、体系目標ごとに評価指標を設定し、毎年度自己評価を実施し、達成に努めていくこととしています。

まず「計画的な資料収集と蔵書構成の充実」については、指標を図書館本館・分館、公民館図書室の蔵書数としており、令和6年度は、目標値522, 250点に対して、実績値521, 935点で、目標値の99. 93%であったため、評価はA「サービスの充実が図られている」としました。

次の「資料・情報提供サービスの充実」につきましては、指標をレファレンス件数としており、令和6年度目標値578件に対し、実績は439件で、目標値の75. 95%でしたので評価はB「サービスの現状維持が保たれている」としました。前年度に比べ、件数は増加となりました。大学図書館への利用者紹介や、他市の方からの朝霞市に関するレファレンスを受けるといった例もあり、引き続き、レファレンスコーナーの周知、職員のスキルアップを図ってまいりたいと考えております。

次の「多様な利用者に応じた図書館サービスの充実」ですが、指標①子ども1人あたりの児童書数については令和6年度の児童書蔵書数163, 471点、令和6年度末の15歳までの人口19, 938人で児童一人あたり、8. 20点となり、目標値の103. 14%でしたので、評価はAとしました。

指標の②貸出密度、市民一人あたりの貸出点数ですが、令和6年度は、貸出点数761, 583点、令和6年度末人口が145, 984人で貸出し密度5. 22となり、目標値の76. 8%のため、評価はBとしています。コロナ関連の特需ともいえるべき状況が終わり、緩やかな貸出減

少が見られます。また、公民館の中で最も利用の多い北朝霞公民館の空調工事による長期休室の影響もあるかと思われます。

次に「図書館の効率的・効果的な運営」ですが、指標を職員の司書資格保有率としており、令和6年度は、職員数20人中、司書資格保有者が11人、司書資格保有率は55.0%、目標値の122.22%となるため、評価はAとしました。

以上でございます。

有永会長

ただ今、事務局から説明がありましたが、ご意見やご質問はございますか。

大野副会長

4の司書資格の保有率ですが、これは職員が通常業務のほかに個人で勉強をして資格取得をした、ということですか。

齊藤補佐

そうではなく、配属された職員のうち何人が司書資格を持っているか、ということです。

大野委員

資格を持っている人を採用するとか、配属された人が自分で勉強をして資格取得をした、ということですか。

齊藤補佐

市全体の人事異動の中で、司書資格を持っている職員が配属されてくる、という形ですので、図書館独自に資格保有者を採用しているということではありません。また、ここ数年は、配属された職員が資格を取得しているということもありません。

駒牧委員

1の蔵書構成についてですが、毎年予算措置されて図書を購入するのは分かるのですが、廃棄というか、入れ替えはどのように行っているのですか。

齊藤補佐

廃棄に当たりましては、除籍基準に則り汚損・破損したもの、また、現状は書庫も含め棚が満杯の状態ですので、残念ながら購入した数だけ廃棄せざるを得ない状況で、出版されてから相当の年月が経ち、役割を終えたと判断できるものについて廃棄を行っています。この場合はただ廃棄するのではなく、一般書についてはリサイクルコーナーへ、児童書につきましては小学校、保育園、幼稚園に提供して、市民の方に再活用していただけるようにしています。

有永委員

評価について、たしか以前にABC評価だけでなくコメントを入れた方がよいのでは、という指摘があったと思うのですが。この後に出てくる「第3次朝霞市子ども読書活動推進計画」の実績報告はコメントがあるので、同様にした方がよいと思います。

2のレファレンスについてですが、図書館ホームページでPRをしてほしいと思います。他市ではメールでレファレンスを受け付けたり、ホームページで事例集を公表しているところもあるので、将来的にはそういうことも行ってほしいと思います。

3の②貸出密度について、朝霞市は県全体と比較しても人口の増加率が多いにもかかわらず、貸出点数の減少率が高いようです。現状では目標の達成は難しいと思うのですが、どう考えていますか。

増田館長

まず貸出点数についてですが、朝霞市も高齢化は進んでいるものの、ほかの市に比べてゆるや

かな傾向にあり、人口も増え続けていることから、比較的若い市といえます。対して貸出にしましてはここ何年も微減傾向が続いてしまっております。これは全国的にも同様であり、現状、貸出点数を増やす方策というのは、どこの自治体も頭を悩ませているところだと思います。

ただ、考え方として、以前は貸出数というのが図書館を評価する上で大きなウエイトを占めていましたが、今後も貸出点数を右肩上がりに増やすことを目指すのか、あるいは居場所としての滞在型図書館を目指すのか、というのがあると思います。どのような図書館を目指すのか、どこに軸足を置くか、を考えてゆくことが大切だと思います。

有永委員

現計画の目標値は上昇見込ですが、今後はどうするのですか。目標値を下げるのでしょうか。

増田館長

それにつきましては次期計画におきまして、従来どおり上昇見込とするか、現状を見て横ばい傾向にするか、考えたいと思います。

石川委員

有永会長の言われたとおり、評価のところに関してABC評価のほか、目標に到達したか否かよりも、目標を達成するためにどんなことを実施したのか、という記述をすることが大事ではないかと思います。例えば蔵書数でいえば、何冊購入したという事だけでなく、どのような選書を行ったのか、どんなリクエストに応えたのか、貸出密度でいえば来館を促すために何を行ったのか、そういうことを記述したうえで、その評価と併せて図書館協議会の意見を記載してもよいのでは、と思います。

それから、この資料2の内容は、公表されるものなのでしょうか。資料3と少し色合いが異なる印象なので気になったところです。

齊藤補佐

資料2、3とも公表されるものです。また、ご指摘のとおり、評価につきましては結果が出るまでの過程が非常に大切だと思いますので、次期計画におきましては、その辺りも含め、この協議会でのご意見をいただきたいと考えています。

有永会長

では、ウ第3次朝霞市子ども読書活動推進計画（令和6年度実績報告）について、事務局より説明をお願いします。

齊藤補佐

それでは資料3「第3次朝霞市子ども読書活動推進計画実施計画実績報告（令和6年度）」をご覧ください。

この計画の進捗状況及びその成果については、朝霞市立図書館協議会及び朝霞市子ども読書活動推進連絡会に報告するとともに、評価及び意見を求めるものとしております。

実施計画では、3本の目標に対して、各施策を実施機関が担うものとしており、各施策の目標は、実施機関が設定、第3次朝霞市子ども読書活動推進計画実施計画として位置付けています。評価欄については、数値目標になじまない施策が多いことから、施策の実施報告を記載した内容のものがほとんどで、活動目標が多い状況となっています。

目標1の「子どもの読書環境の整備・充実に関する施策」ですが、それぞれ目標に沿った施策が行われていることが報告されています。活動目標については、それぞれ継続・充実、実施が図られた旨報告されました。

まず「①ブックリスト作成やおすすめ絵本展示による情報提供」では、図書館を実施機関とし、夏休み用ブックリストを作成、図書館、各公民館図書室で配布したほか、ティーンズ向けにテーマ展示のリストや季節のカレンダーの作成を実施しました。

「②幼稚園・保育園での子どもが読書を楽しむ環境づくり」では、保育園、幼稚園を実施機関とし、園児たちが絵本を手にしやすい環境づくりや読み聞かせを実施したとの報告がありました。

「③学校での子どもが読書を楽しむ環境づくり」は、小・中学校と高校が実施機関となり、それぞれ読み聞かせや、テーマや季節に合わせた展示の実施などの報告がありました。

「④図書資料での子どもが読書を楽しむ環境づくり」は図書館を実施機関とし、図書の計画的な選書・購入による資料の充実、読み聞かせ会や映画会を実施しました。

「⑤児童館での子どもが読書を楽しむ環境づくり」は児童館を実施機関とし、各館での読み聞かせの実施に加え、小中学生読み聞かせボランティアを実施したとの報告がありました。

「⑥放課後児童クラブでの子どもが読書を楽しむ環境づくり」は放課後児童クラブを実施機関とし、本の紹介や講演活動としてペープサートを行うなど、本や読書への関心を促進する活動を行いました。

「⑦子育て支援センターでの子どもが読書を楽しむ環境づくり」は子育て支援センターを実施機関とし、「絵本の日」「おはなしげんきっこ」を実施し、親子で絵本に親しむ機会を実施しました。

「⑧障がい等で支援が必要な子どもが読書を楽しむ環境づくり」は、みつばすみれ学園を実施機関とし、園外での活動として、図書館で本を借りる体験や、読み聞かせの実施などを行いました。

「⑨電子書籍利用に伴う調査・研究」は図書館を実施機関とし、読み上げ機能があるなど、電子書籍ならではの特征があるものの選定や、集団読書に対応できるよう、児童書の「読み放題パック」の購入を行いました。引き続き、よりニーズのあるタイトルの選定と、電子書籍の利用促進・支援についての調査・研究を進めてまいります。

「⑩安心・安全に利用できる図書館利用環境の提供」は図書館を実施機関とし、図書館施設の定期的な点検や消防訓練の実施により、安全に利用できる環境を提供できました。

目標２の「家庭・学校・地域のネットワークづくり推進」につきましても、いずれの施策も目標を達成し、定例開催・通年実施できたとの報告がありました。

「②ネットワークを活かした読書活動の推進」について、みつばすみれ学園が朝霞保健所との交流会における大型影絵を実施、図書館では団体貸出の実施や子育て支援センター、小学校や高校からの要請により、講師派遣を実施しました。

「③子どもの読書習慣形成に向けた新たな仕組みづくりの調査・研究」については各自治体での活動について調査・研究に努めました。

目標の３「子どもの読書活動に関わる情報の収集と提供」につきましても、いずれの施策につきましても継続・充実が図られたとの報告がありました。

「②子ども読書の日等での啓発」については、各施設においてポスター掲示などPRに努めていただきました。

「③年齢ごとのブックリスト等の作成、優良図書の紹介」は、各機関において実施していただきました。

以上でございます。

有永会長

ただ今、事務局から説明がありましたが、ご意見やご質問はございますか。

石川委員

朝霞高校、朝霞西高校の図書館は県職の司書が常駐され、優れた活動をされていますが、朝霞市の小・中学校図書館の学校図書館サポートスタッフは、パートタイム勤務や他校との兼職により、常駐していないと聞いています。子どもたちの日常生活の中での読書環境について、学校図書館というのは非常に重要です。次期計画においては、学校図書館サポートスタッフのフルタイム化を含め、小・中学校図書館の整備がポイントになるかと思います。

増田館長

小・中学校の現場は多忙を極めており、なかなか新しいことを始める余裕がない、と伺っています。

学校図書館サポートスタッフや子ども図書館の司書につきましては、市全体の人事に関わるものですので、今後の課題とさせていただきたいと考えております。

石川委員

例えば、図書館と学校図書館の資料検索や電子書籍の共有化を図ったり、学校図書館サポートスタッフの研修・育成についても図書館がどう考えるか、など、市全体の読書環境の整備というものが次期計画の実施計画のポイントになってくると思います。

有永会長

せっかくですので、朝霞高校の図書館ではどのようなことを行っているか、ご紹介ください。

伊藤委員

司書がレファレンス機能を重視しており、授業の中にどう取り込んでゆくか考えてくれています。私も、校長講話の中で必ず本を紹介し、紹介した本を図書館で並べてもらっています。その本が貸出中になっていると、非常に嬉しく思います。生徒自らが進んで本を手にしてくれればよいのですが、いろいろな機会に紹介することが大切かと思えます。また、この地区は学校間の検索ネットワーク・システムがあり、自校にない本を他校から借りることができるなど、非常に充実しています。

本校は定時制もあるのですが、こちらではビブリオバトルを盛んに行っており、大会にも参加しています。

有永会長

ありがとうございます。

それでは、エ朝霞市子ども読書活動推進計画アンケートおよび朝霞市子どもモニターアンケート集計結果について、事務局より説明をお願いします。

齊藤補佐

資料4をご覧ください。朝霞市子ども読書活動推進計画アンケートの集計結果です。

最初に就学前児童の保護者へのアンケート結果です。

質問2の「あなた（家族）はお子さんに本の読み聞かせをしたり、一緒に読んだりすることがありますか。」に対し、「ほぼ毎日読んでいる」は、前回より減少しているものの、「あまり読んでいない」が23.4%で、何らかの形で「読んでいる」層が非常に多いという結果になりました。

問3の「お子さんが読む本はどのように用意していますか」については、「家にある本を利用」というのが圧倒的で、ほかの選択肢への回答を合わせると、図書館や公民館図書室を利用していない割合が半数以上となっています。これについて、自由記入欄への回答で、図書館の本を汚破損することを懸念して利用しないという声もありました。

質問7の図書館での各種催事については「開催されていることを知らなかった」が半数を超えており、PR不足であることを痛感しました。

次に小学生のアンケート結果をご覧ください。

質問2の「あなたは本を読むことが好きですか。嫌いですか。」について、「好き」が前回の令和3年の調査より大きく減少し、「好きでも嫌いでもない」が増加しています。その理由は、「インターネットを使うことが多く、本を使うことがあまりないから」が67.3%を占めています。

質問8の「読書に親しむようになるにはどのようなことが必要だと思いますか」には、「学校の読書の時間を多くすればよい」が最も多く、「図書館等が読みたい本を用意すること」や「読みたい本を紹介」は、ほぼ同じ割合でした。また、本の紹介は、「家族や友だち」が63.6%で最も多く、ついで「図書館の人」が36.4%でした。

自由記入欄については、小学生の皆さんがかなりの熱量をもって書いてくださいました。書か

れている内容を見ますと、多くが学校図書館についてのことでした。先ほど石川委員が言われたように、子どもたちの読書環境について、学校図書館は大きな役割を持っていることが見て取れます。また、これだけ熱心に自由記入欄に記入してくれているということは、やはりこの年代までに読書経験を積んでもらうことが大切ということを読み取る事ができると思います。

次に中学生のアンケート結果をご覧ください。

質問2の「あなたは本を読むことが好きですか。嫌いですか。」で「好き」が前回の令和3年の調査より大きく減少し、「好きでも嫌いでもない」が増加しており、理由として「主にインターネットを利用」が57.0%、「興味がない」が37.2%となっています。

質問6の「あなたがもっと本を読みたくするには、どのようなことが必要だと思いますか」については、「図書館が読みたくするような本をたくさん用意すればよい」が45.9%で最も多く、ついで「読みたくするような本を誰かが紹介してくれればよい」が26.3%になりました。紹介者では「家族や友だち」が61.6%で最も多く、ついで「図書館の人」が25.3%になりました。

次に高校生のアンケート結果をご覧ください。

質問3「あなたは本を読むことが好きですか。」について、「好きでも嫌いでもない」が47.8%で最も多く、ついで「好き」が36.1%になっています。「好きでも嫌いでもない」理由は、「主にインターネットを利用」が48.3%で最も多く、ついで「興味がないから」が41.5%になっています。質問6で「1ヶ月以内に何冊くらいの本を読みますか」の問いには、「0冊」が65.9%で、令和3年の前回調査の50.0%からかなりのハイペースで増加しています。一方で、電子図書を利用しているは39.4%で、前回調査の48.7%よりも減少しています。このことから、インターネットの利用において、文字よりも、動画等を見る時間が多いのではないかと思います。

質問9の「読書に親しむようになるには、どのようなことが必要だと思いますか」には、「学校の読書の時間を多くすればよい」が36.1%で最も多く、ついで「図書館が読みたくするような本をたくさん用意すればよい」が35.7%になりました。

紹介者では「家族や友だち」が最も多く、小・中学生でも同じ結果であることから、身近な人が介在することが大切であると思われる。

私たち大人も、仕事・プライベートともにモニターを見ることが非常に多くなっています。アンケート結果から、子どもたちも同様であり、今後、いかに子どもたちと本をつなげていくかが課題であると感じています。

つづいて資料5をご覧ください。こちらは、市政子どもモニターに登録されている48人に実施されたものです。回答率は56.3%で、小学四年生から高校生の方まで、27人に回答をいただいています。

問3「本を読むことが好き」と答えたのが74.1%で、このアンケートのサンプルが少ないこと、また、「このアンケートに答えよう」と思うのは、興味のある子どもたちであることを差し引いても、悪くはない数字だと思っています。

特に、問5「あなたは、ちいさいころに家の人や保育園・幼稚園の先生から本を読んでもらったことがありますか？」の問いには、回答した全ての子どもたちが、「読んでもらったことがある」となっています。この点はとても大切で、「読み聞かせをされた経験がある」ことが、読書や図書館を身近に感じてもらうポイントになると考えています。

やはり、経験がないこと、来たことがない場所には、子どもも大人も「本を読んでもみよう」「書店や図書館に行ってみよう」「子どもに読んであげよう」とはならないので、出会いの場所や仕組みが大切になってきます。このアンケートからも、文字情報をモニターから読むことが、普通になっていることが分かります。今後は、こうした社会状況の変化に対応しながら、どのように読書活動の推進を行うか考えていく必要があります。以上です。

有永会長

電子書籍の利用ですが、小学生でも29.2%、中学生38.8%というアンケート結果と、非常に早い段階から利用していることが分かります。このことから、図書館の電子書籍もこの年代の人たちに利用してもらえるような、学校での調べ学習に使えるものやライトノベルを充実し

てほしいと思います。

あと、電子図書館の登録者の年代別統計はありますか。高齢者の登録が少ないと聞いたのですが。

齊藤補佐

統計データは出せるのですが、サンプル数が少ないので傾向を読み取るのは難しいと思います。

有永会長

若者向けのコンテンツをもっと導入すれば、若い人たちに使ってもらえるのではないかと思います。

齊藤補佐

ただ、実際の窓口対応において、中・高生をはじめ若い人たちに電子図書館の登録を勧めても、多くの場合において断られるという実態もあります。

増田館長

図書館に来る若い人は、元から読書習慣のある人たちですので、あまり電子書籍に魅力を感じていないのかもしれませんが。逆に、電子書籍をきっかけに、読書習慣のない人たちに食い込み、これを通じて紙の本の魅力を知ってもらう、というのが目指すべきところであり、今後、これをどのように行っていくか、模索していくことになると思います。

それから学校図書館についてですが、現在、図書館で取り扱っているものとは別に、学校図書館向けのコンテンツがあります。図書館で扱っているものでも集団読書に対応できない事もないのですが、児童生徒一人一人のID等を学校の先生方に管理していただく必要があります。この点、学校図書館向けコンテンツであれば管理も容易であり、先生方の負担も少なく済むことになります。電子書籍が広がる余地はまだあると考えていますが、人材も予算も不足しているところであり、今すぐは無理でも5年後、10年後を目指していきたいと考えています。

齊藤補佐

電子書籍ですら若者から忌避されるというのは、今の若者は映像、動画を観ることが主であり、紙、ディスプレイを問わず、活字を追う、ということが苦手になっているのではないかと思います。このような大きな変化の中で、図書館としては、とにかく活字に触れる機会を多く提供することが大切だと思います。大学生はどのような状況でしょうか。

石川委員

驚くほどの読書量の学生もいれば、全く読まない学生もあり、二極化していると思います。

有永会長

電子書籍や新聞データベース専用の大型モニターを用意してもよいのではないのでしょうか。大学にはそのような設備があるのでは。

石川委員

研究用に新聞データベースを見るものはそんなに大きいモニターではありませんが、今後は字の拡大や、翻訳、音訳などトータルにできるタブレットが求められるのではないのでしょうか。

有永会長

それでは、議題（２）その他について、事務局より説明をお願いします。

齊藤補佐

今後の「第４次図書館サービス基本計画」「第４次朝霞市子ども読書活動推進計画」の予定です

が、これで一通り基礎データとなるアンケートが終了しましたので、アンケートの結果といただいたご意見等を踏まえて計画案を作成し、出来上がり次第、こちらの協議会に諮らせていただき、策定を進めてまいりたいと思います。

駒牧委員

策定スケジュール表はないのですか。

増田館長

前回の協議会でお配りしておりますが、多少、予定がずれ込んでいるところがありますので、修正したものを、只今準備いたします。

有永会長

朝霞に初めて図書館ができてもうすぐ60周年、現在のこの図書館ができて40周年になりますが、これまでの歴史を振り返り、アピールするイベント等は考えているのですか。

増田館長

2027年度がこの図書館ができて40周年になりますので、そこに向けて準備が必要かと考えております。

(事務局、スケジュール表を配布)

増田館長

現在、キーパーソンミーティングが遅れ気味になっておりますが、これを実施し、「図書館サービス基本計画」「朝霞市子ども読書活動推進計画」に読書バリアフリーを盛り込んで一本化した計画にする予定です。

有永会長

事務局から説明がありましたが、ご意見や質問はございますか。

特にないようであれば、全て承認することといたします。皆様のご協力に感謝を申し上げ、議事を終了させていただきます。

早川係長

第3回協議会につきましては正確な日程が決まり次第またご連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、令和7年度第2回図書館協議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。